

# 11・7キックオフ「ゼロ災<sup>ゴ-ゴ-</sup>55」無災害運動

## ～労働局長による安全パトロールを実施～

死亡災害が多発する年末に集中的な取組とするために、平成26年度から1ヵ月前倒し、11月7日から年末までの55日間、『「ゼロ災55」無災害運動』を展開します。

その初日の11月7日（金）10時から、鳥取市気高町地内の「一般国道9号鳥取西道路気高青谷トンネル第1工事【施工業者；アイサワ工業(株)（岡山市）】」の建設現場において、鳥取労働局の河野純伴局長をはじめ、同局幹部並びに「鳥取県建設工事関係者労働災害防止連絡会議」のメンバーも加わり、11名でキックオフ安全パトロールを実施しました。



パトロール冒頭に挨拶をする河野局長（中央）

パトロールは最初に、工事現場事務所において、冒頭、河野局長が「これからの季節はますます寒くなり、トンネル工事は閉鎖的な環境の中で、粉じんや騒音問題など特有な疾病も心配され、耳栓、防じんマスクに加えて、防寒着を着込んでの作業は動作も緩慢になって危険性が高くなり、労働災害が発生するリスクが高まることになるので、万全の体調で注意力を怠らないようにして、安全な作業に心掛けていただきたい」と挨拶の中で呼びかけました。

続いて、施工業者のアイサワ工業(株)の有松俊文作業所長から挨拶及び工事概要の説明があり、このトンネル工事の掘削は、発破掘削方式のNATM工法で行っており、工事全長1,090mのところ、現時点の掘削は164mで進捗率約10%、本日の作業員はダンプカーの運転手も入れると23名であり、この現場においては、特に安全作業の「見える化」活動に取り組んでいるとの説明を受けました。



工事概要を説明する有松所長



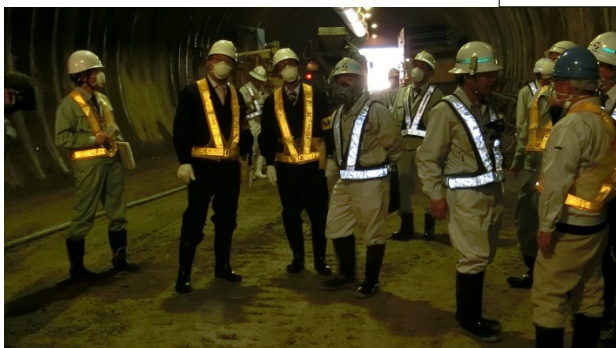
安全の「見える化」例



その後、掘削工事現場を視察し、現場責任者からどの作業員が工事現場に入っているのかなどを示したパネルの説明を受け、工事車両との接触防止や非常灯・消火器・分電盤等の設備など、安全対策がしっかりと行われているか点検を行いました。



安全パトロールの様子



パトロールの途中で工事現場において、NHK鳥取放送局の取材を受け、「これから年末に向けて労働災害がこれ以上増えないよう、しっかりと安全対策に力を入れてもらいたい」と河野局長がコメントを発信しました。



NHKの取材を受ける河野局長

視察後、工事現場事務所に戻り、意見交換・講評が行われ、最初に工事の発注者である国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所の荒木宏工物品質管理官より発注者の立場からのコメントをいただき、順次パトロール参加者全員から講評を行った上で、木村靖健康安全課長が総括講評を行い、最後に、北代昌巳労働基準部長から引き続き工事現場の徹底した安全管理と災害ゼロをお願いして、本安全パトロールを終了しました。



講評する鳥取河川国道事務所の荒木管理官



パトロール終了の挨拶をする北代部長